平成２９年１０月１３日
京都市立朱雀第七小学校
校長　鵜飼　洋子

平成２９年度　全国学力・学習状況調査の結果
★教科に関する調査の結果★

４月１８日に，本校６年生４０名を対象に実施されました。教科に関する調査問題としては，以下の通りになっています。
〇国語Ａ・算数Ａ：基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題
〇国語Ｂ・算数Ｂ：基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかどうかをみる問題

総合結果（国語・算数）

すべてにおいて**ほぼ全国平均を上回る結果**となっています。設問別にみても，国語・算数ともにほとんどの設問で，正答率が全国平均を上回っていました。

一方，無解答率を見てみると，全国的にも記述式の問題において高くなる傾向があるのですが，本校でも，**記述式の問題における無解答率が高くなっています**。中には全国平均より無解答率が高くなっている設問が見られました。このことは，児童質問紙で「学校の授業などで，自分の考えを他の人に説明したり，文章に書いたりすることは難しいか」の問いに対して，「そう思う」を選んでいる割合が全国を上回っていることとつながります。授業の中で，意図的に自分の思いや考えを書く活動を位置付けることにより，書くことへの抵抗を少なくしていく必要があります。また，「解答時間は十分でしたか。」という問いに対して，「やや足りなかった」「「まったく足りなかった」と答えた児童の割合が多いことから，限られた時間内に問題を解くことができなかったため，無解答となったと考えられます。日頃の授業の中でも，時間を意識して自分の考えをまとめたり，書いたりする活動を重視していく必要があることになります。

国　語　科　よ　り

国語Ａ：基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題

すべての設問で全国平均を上回っています。特に，漢字の読みの問題（設問７）においては，高い正答率を示しています。それに対して，漢字を書く問題では正答率が低くなっているものもあります。「参加たいしょう」「箱がおいてあります」の設問で，誤答に合わせて無答も多くなっています。家庭学習で漢字の練習を取り入れてきていますが，実際自分が文章を読んだり書いたりする時に，十分使いこなせているとは言えません。今後，家庭学習のあり方を見直し，ただ漢字を覚えるだけではなく，日常的に文や文章の中で使うことができるようにすることが重要です。書いた文章を読み返し，文や文章の中で果たす漢字の意味をとらえた上で，正しく使えているかどうかを自分で評価することができるようにします。また，漢字を習得し語彙を広げるためには，国語辞典や漢字辞典を日常的に利用して調べる習慣を付けることも重要です。必要なときにはいつでも辞書が手元にあり使えるような環境をつくっていきたいと思います。

さらに，手紙の構成を理解し，後付けを書く問題（設問２二）において，正答率が低くなっています。手紙の基本的な形式として，表書きに宛名や住所を書くことや，後付けにおける署名と宛名の位置関係を学習しています。しかし，実生活において手紙を書く経験が少なくなってきているため，なかなか定着しません。そこで，署名と宛名の位置関係を押さえるだけでなく，「宛名を最終行の上の位置に書くことで相手への敬意を示すことにつながる」など，手紙の形式がもつ意味についても合わせて指導する必要があります。

国語Ｂ：基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかどうかをみる問題

ほとんどの設問で全国平均を上回っています。「スピーチメモを使うことのよさを捉える」問題（設問１二）において全国平均を上回る結果を示しています。また，「目的や意図に応じて，文章全体の構成を考える」問題（設問２一）においても全国平均を上回る結果を示しています。授業において，自分の考えを書いたり話したりする際，よりよくするために何が必要か考えてきた成果が，正答率の高さとなって表れています。これに関連する児童質問紙を見ると，「授業で意見などを発表するとき，うまく伝わるように話の組み立てを工夫しているか」「授業で自分の考えを書くとき，考えの理由が分かるように気をつけて書いているか」の問いに対して，「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」を選んでいる割合が全国を上回っています。

しかし，「スピーチメモとグループの話し合いで出された意見を基に書く」問題（設問１三）において全国平均を下回る正答率となっています。他にも，「中学生からのアドバイスを基に書く」問題（設問２三）においても，全国平均は上回るものの，正答率が 40.0%と低くなっています。これらの問題では，与えられた条件の元で書くことが求められています。授業で行っている書く活動において，目的や意図に応じて的確に書くことができているかを自己評価する力を身に付ける必要があるでしょう。そのために，書いたものを読み直す際に，「必要な事柄を書くことができているか」「相手に分かりやすい表現になっているか」等，視点を明確にして評価できるようにしていきたいと思います。

一方，「話し合いにおける発言の意図をとらえる」問題（設問３二）において，全国平均は上回るものの，正答率が 30.0%と低くなっています。授業の中で，物語を読んだ感想を伝え合う学習は行ってきています。その際，単に感想を伝えるだけになっていないか見直す必要があります。聞き手が，自分の感想と比べながら聞き，疑問に思ったことやもっと知りたいことを質問し合うことで，話し合いが深まります。相手の考えの根拠を明確にするために，「どこからそう思うの」と質問したり，相手の考えを聞いた上で，自分の理解が正しいかを確かめるために，「〇〇さんの言いたいことはそういうことなの」と質問したりする等，一人一人が主体的に参加する話し合いになるように指導していきます。

算　数　科　よ　り

算数Ａ：基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題

「計算の能力（計算の意味と計算の仕方の理解）」の問題（設問１）では，概ね良好な結果を示しています。計算の学習では，計算の意味について理解し，計算の仕方を考えることも大切にしています。

「四則計算をすること」の問題（設問２）では，問題によって正答率にばらつきがあります。「123×52 を計算する」問題で，全国平均を下回っています。これからも，小学校の間に学習する「整数・小数・分数の四則計算をすること」については，基礎・基本の力として確実に定着できるように，学校や家庭学習で繰り返し学習していくようにします。

一方，「図形」の領域において，全国平均を下回る問題が見られます。「円を使って正五角形をかくとき，円の中心のまわりの角を何度ずつに分割すればよいかを書く」問題（設問６）です。これら図形の領域においては，図形についての感覚を豊かにし，図形の性質を実感的に理解できるようにすることが大切です。

算数Ｂ：基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかどうかをみる問題

すべての設問で全国平均を上回っています。

算数の問題場面から見いだした数量の関係を考察したり，その関係を一般化して表現したりすることができるかをみる問題（設問１）において，全国平均を上回る結果を示しています。きまりを見いだす楽しさを児童が実感できるようすることが大切です。「他の場合でもこの関係は成り立つのだろうか」といった児童の疑問を生かした学習展開を工夫していきます。

算数の学習では，言葉や数，式，図，表，グラフなどを用いて，筋道立てて説明することが求められます。今回も記述の問題が出題されていますが，全国平均を上回っているものの，正答率が 50%に満たないという結果になっています。また，それらの問題における無解答率が全国平均より高くなっています。問題を解決するために見通しをもち，筋道立てて考え，その考え方や解決方法を説明することが大切です。

算数で学んだ知識・理解を，生活場面や他の教科の学習の中で活用することが求められています。児童質問紙に，「算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか」「算数の授業で学習したことは，将来，社会に出たときに役立つと思いますか」という問いがあり，「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えている児童が全国平均を上回っています。これからも，算数的なものの見方・考え方が様々な場面で生かせるように取り組んでいきたいと思います。

ご協力のお願い

各教科における，本校児童の課題につきましては，本調査だけでなく，ジョイントプログラム等に関する分析等も行いながら，より一層の授業改善に努めてまいります。学力は，学校・家庭・地域での地道な積み重ねにより定着していくものであり，望ましい生活習慣や日々の学習習慣がその基盤となります。引き続きご協力よろしくお願いいたします。

★児童質問紙から見える子どもの様子★

６年生で今春４月に実施した標記調査では，学力調査と同時に学習状況に関する９２項目のアンケートが実施されています。その調査内容は，大きく分類すると次のようになります。

主体的・対話的で深い学びの視点による学習指導の改善に関する取組状況，学習評価の在り方	７～９，１１，３８，５４～６０，６６～６８，７４～７６
挑戦心，達成感，規範意識，自己有用感等	４～６，１０，４９～５３，６４
保護者に対する調査関連	１７～１９，２３～３０，７４
学習に対する関心・意欲・態度（国語）	６９～７１，７３，７７，８９，９０
学習に対する関心・意欲・態度（算数）	７１～７３，７５，７９，９１，９２
学習状況	６１～６３
学習時間帯	１５，１６，２９～３２
学校生活等	２０～２２，３５～３９
基本的生活習慣	１～３，１２～１４
地域や社会・外国に対する興味・関心	４０～４８，６５

以下にこの調査から見えてきた本校児童の特徴をお知らせいたします。

「早寝早起き朝ごはん」は，生活リズムの基本です

○**「毎日朝食を食べている」**児童の割合が，「している」85%，「どちらかといえばしている」15%で，合わせると 100%という結果です。すばらしいことですね。

○**「毎日同じくらいの時刻に寝ている」**児童の割合が，「している」32.5%，「どちらかといえばしている」40%で，全国平均よりも少なくなっています。

○**「毎日同じくらいの時刻に起きている」**児童の割合が，「している」55%，「どちらかといえばしている」32.5%で，全国平均よりも少なくなっています。

⇒早寝早起きの習慣については，もう一度家庭で確認ください。ゆとりをもって起床できるようにし，**バランスの良い朝ご飯**が食べられるようにしてください。このことが，その日の学校生活に大きく影響することになるでしょう。

挑戦する気持ちや達成感が，子どもの意欲を高めます

○**「ものごとを最後までやりとげて，うれしかったことがある」**児童の割合が，「当てはまる」70.0%で全国平均 73.4%より低くなっています。「どちらかといえば当てはまる」を合わせると，95.0%で，ほぼ全国平均と同じになっています。

○**「難しいことでも，失敗をおそれないで挑戦している」**児童の割合が，「当てはまる」と「どちらかといえば当てはまる」を合わせると，70.0%で，全国平均 77.4%より低くなっています。

○**「自分には，よいところがあると思う」**児童の割合が，「当てはまる」と「どちらかといえば当てはまる」を合わせると，80.0%で，全国平均 77.9%より高くなっています。しかし，「当てはまらない」が 10.0%で，全国平均 7.0%より高くなっています。

⇒**自尊感情の高い子ども**が多いことが伺えます。成長するためにはとても大切なことです。ものごとを最後までやりとげた達成感や難しいことに挑戦した経験が，子どもの自信につながります。学習や学校の様々な取組を通して，子どもたちが自己有用感を高めることができるように工夫していきます。ご家庭でもお子様の良いところは意識的にほめる等の工夫をしてください。

家庭学習や読書をする子は学力の伸びが違います！

○**「１日当たりどれくらいの時間，勉強しますか」**という設問に対して，二極化の傾向が見られます。具体的には，１時間以上勉強しているとする児童は全国平均を上回っているのに対して，全くしない児童も全国平均を上回っています。**「自分で計画を立てて勉強しているか。」「予習しているか。」「復習をしているか。」**という設問に対しても，二極化の傾向が見られます。家庭学習を自主的にしている子とそうでない子の差があることが分かります。

⇒家庭で進んで勉強できる子とそうでない子との差が見られるという現状を打開するために，学校としては**「家庭学習の手引き」を作成し**，家庭学習の大切さを伝えるとともに，主体的に行う学習のヒントを示しています。ご家庭におかれましては，生活習慣の中に発達段階に応じた学習時間を位置づける等のご指導をお願いします。

○**「１日当たりどれくらいの時間，読書しますか」**という設問に対しても，二極化の傾向が見られます。30 分以上と答えている児童が 40.0％で，全国平均 36.5％より多いのに対して，全く読まない児童が 25.0％と，全国平均 20.5％を上回っています。**「学校図書館や地域の図書館に行きますか」**という設問に対してあまり行かない児童が多いという結果になっています。

⇒「読書が好き・どちらかといえば好き」と答えている児童が 80.0％を占めています。しかし，学校図書館に足を運ぶ児童はそう多くはありません。学校図書館では，子どもが本を手にしやすいようにテーマを決めて本を並べるなどの工夫をしています。また，国語の学習においても，教科書に載っているお話を読むだけで終わるのではなく，関連のある本を並行読書する学習を行ってきています。さらに，本を読む楽しさを実感できるように取り組んでいきたいと思います。

学校は公の場　ルールを守れる子どもに！

○**規範意識**に関する項目はほとんどが全国平均並みの結果でした。**「人のために役に立つ人間になりたい」**という児童が多く，これからが楽しみです。

○**「いじめは，どんな理由があってもいけないことだと思う」**という設問に対して，「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」を合わせて 100％という結果でした。

⇒社会にはルールがあるということ，家庭でのルールも明確にしていただき，ルールを守ることが家族全体の幸せにつながるという実感をもたせていただければ幸いです。また，人を大切にする気持ち，もちろん自分も大切にする気持ちを持ち続けてほしいと思います。

地域や社会に目を向けられる子どもに！

○**地域や社会とのつながり**に関しては，地域行事に参加する児童生徒が多い傾向にあります。しかし，社会に関するニュースに関心のある児童が少なく，新聞を読む率も低くなっています。また，「地域や社会をよくするために，何をすべきか考える」児童や「地域社会などボランティア活動に参加したことがある」児童の割合も，全国平均と比べて低くなっています。

⇒地域行事に単に参加するのではなく，要員として役割を担わせるなどの社会貢献をさせていただけたら幸いです。ますます地域とのつながりが強くなるでしょう。３年生以上の総合的な学習の時間には，課題をもって学習することを通して，様々な事象に主体的に関わり考える学習を行っています。